

2018 年度 自己点検・自己評価報告書

A d a c h i 学園
専門学校東京デザイナー学院

2019 年 3 月 31 日作成

1・学校の教育目標

●業界で活躍できる人材の育成・輩出

『ゼロからプロになる』ための『人間力』を引き出す

●東京デザイナー学院が求める人物像（アドミッションポリシー）

感動力を持つ

果敢にチャレンジする

自分らしさを育む

2・本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

●就職

本年度の実績として

- ・ 就職希望率 93.8%
- ・ 就職決定率 94.4%

本年度実績を踏まえた目標

- ・ 就職希望率 95.0%
- ・ 就職決定率 100%

●進級継続

本年度実績として

- ・ 1年次から2年次へ 87.3%
- ・ 1年次から卒業へ 86.9%

本年度実績を踏まえた目標

- ・ 1年次から2年次へ 87%
- ・ 1年次から卒業へ 86%

3・評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか	④	3	2
・学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	②	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

① 課題

情報公開については、各授業のシラバス、収支報告など、現状ではまだ不十分な部分がある。また、保護者への情報伝達も郵送等では行われてきたが、将来的には保護者会の開催等が必要だと思われる。

業界ニーズに向けての方向付けについては、各学科で随時、カリキュラムの見直しを行っているが、学科によって進捗には差があり、全ての学科で完璧にニーズに応え切れているとは言い切れない点がある。

② 今後の改善方策

次年度では、夏期休講期間などを利用した保護者会の開催を企画・検討する。

業界のニーズに応える人材を、2年間という就学期間で育成するためのカリキュラムの見直しを行ったので、次年度でその効果を検証していく。

③ 特記事項

なし

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	③	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	③	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	②	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	②	1
・情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	4	③	2	1

① 課題

年度の中途から「業務デザイナー」という新しいネットワークシステムが導入され、以前よりも意思決定機能は円滑になったが、まだ組織の中で完全に機能しているとは言い難い。業界や地域社会に対するコンプライアンスは、主に前者は著作権について、後者は地域社会からの要請が該当すると思われるが、学校としての窓口等は特に設定されていない状況である。情報公開については、前項（1）教育理念・目標でも指摘があった通りである。

② 今後の改善方策

「業務デザイナー」が、今後も組織運営や意思決定機能の中心となることは変わらないため、教職員のシステムに対する習熟を促すための説明会や研修等を行っていく。業界や地域社会に対するコンプライアンス体制については、まず窓口を設置することから始めていく。

③ 記事項

なし

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	④	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
・成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

イラストレーション科、マンガ科、ファッションデザイン科、メイクアップデザイン科においては、企業・業界団体との連携が遅れており、そのことが外部関係者からの評価の導入の遅れにもつながっている。関連分野における教員の資質向上に向けての取り組みについては、グラフィックデザイン科、プロダクトデザイン科、インテリアデザイン科、建築デザイン科、映像デザイン科については、既に独自の研修を年間スケジュールの中で計画・実施しているが、それ以外の学科は、そこまでには至っていない。また、近年は教員の高齢化も目立ってきており、若年教員の人材確保も課題となっている。

② 今後の改善方策

カリキュラム編成において連携する企業・業界団体が特定されていない学科においては、今後、当該学科の学科長とキャリアサポートセンターが中心となって、早期に連携先を探す。同様に関連分野における教員の資質向上についても、計画的に実施できていない学科については次年度のスケジュールに組み込み、研修や勉強会等の実施を促す。若年教員の人材確保においては、関連分野の企業において数年以上の実務を経験した卒業生を中心に確保を進めていく。

③ 特記事項

なし

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・就職率の向上がはかられているか	④	3	2
・資格取得率の向上がはかられているか	4	3	②	1
・退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

建築デザイン科では、卒業と同時に二級建築士の受験資格が付与されるが、試験そのものは卒業後に実施されるため、その年に何人受験して、何人合格したのかという正確なデータまでは把握し切れていないのが実情である。卒業生の社会的な活躍については、教員と卒業生の個人的なつながりの中で把握しているが、学校として活躍を把握するためのシステムまでは構築されていない。

② 今後の改善方策

建築デザイン科の二級建築士の受験状況、及び合格率については、正確に掌握できるような仕組みを早急に構築していく必要がある。また、卒業生の社会的な活躍については、卒業生による校友会組織を有効に活用し、情報集約ができるようなシステムづくりを進めていく。

③ 特記事項

なし

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の生活環境への支援はおこなわれているか	④	3	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みがおこなわれているか	4	③	2	1

① 課題

保護者との適切な連携については、担任や学科長を通じて個別に対応はしているが、在校生の保護者を集めて説明をするような機会は設けていない。また、高校・高等専修学校等との連携については、法人として本年度から「進路 EXPO」を開催し、高校関係者への働きかけを始めたところである。

② 今後の改善方策

保護者会については、開催を目指して次年度以降、準備を進めていく。また高校等との連携については、今後学校のイベント等の招致を通じて連携を深めていく。

③ 特記事項

なし

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	②
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 課題

設備面で充分とは言えない面も目立つ。インテリアデザイン科では、学生の収容人数に対して大型モニターの性能が追い付いていない教室がある。映像デザイン科のPC教室では常時、多数のPCが稼働しているため教室内に熱気がこもり、換気のための設備が不足している。また、1学年で200名を超える学科もある中、100名以上を1度に収容できるようなレクチャー教室も不足している。防災に対する体制については、非常用の飲料水や食料などの備蓄は充分にしてあるが、非常時にそれを有効に運用するためのマニュアルの整備が追い付いていない。

② 今後の改善方策

教室の整備は、教育環境に直結するため、随時改善をしていく。防災に対する体制については、運用面で課題が残されているため、非常時マニュアルの整備や教職員研修、学生を含めた避難訓練を行っていく。

③ 特記事項

なし

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2
・学生募集活動において、教育効果は正確につたえられているか	④	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

なし

(8) 財務

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適正におこなわれているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

なし

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	④	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

個人情報の保護には規定を設け、組織的に取り組んではいるが、例えば学生の個人情報が記された資料を、人目に触れるような状態でデスクの上に置いていないか、といった細部の運用については、徹底されていない部分もある。

② 今後の改善方策

個人情報の扱いについては、教職員が相互に注意し合うことによって厳重な保護に努めると同時に研修を実施し、全教職員が正確な理解のもとに管理できるような態勢の構築を目指す。

③ 特記事項

なし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4	③	2
・学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 課題

地域貢献については、例えばインテリアデザイン科が東京ドームホテルと連携する、マンガ科・イラストレーション科が茗溪通り会
地元商店街のイベントに似顔絵制作で貢献するといった、各学科単位では行っているが、学校として積極的に推進するには至っていない。
学生ボランティア活動については、ケース毎に各学科で対応している状況である。

② 今後の改善方策

地域貢献活動、ボランティア活動ともに、各学科単位で実施しているものを集約し、現状を正しく掌握する。そのうえで学校としての取り組みを打ち出していく。

③ 特記事項

2019年3月にインドネシア共和国の教育長からの要請で、同国のファッションデザイン関連の教員の研修を3週間に渡って本校にて実施。

(11) 国際交流（必要に応じて）

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	④	3	2
・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわれているか	④	3	2	1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
・学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4	3	②	1

① 課題

以前は、インテリアデザイン科による東京デザイナーウィークへの出展、映像デザイン科によるシーグラフへの出展といった、国際的なイベントへの出展を積極的に行っていたが、個々の学科単位での取り組みである、学校を挙げてというわけではなかった。また、近年はそれも縮小傾向にあり、今後、学校としてどのように取り組んでいくか、再考する時期に来ている。

② 今後の改善方策

国際的なデザイン・コンペディションに学校を挙げて取り組む等、学修成果が国内外で評価されるような取り組みを検討していく。

③ 特記事項

1) 2017年度に学内に留学生の在籍管理、及び学修・生活指導を行うための留学生センターを設置し、専従スタッフ2名を配置。

2018年度より専従スタッフを3名に増員。

2) 2019年3月にインドネシア共和国の教育庁からの要請で、同国のファッションデザイン関連の教員の研修を3週間に渡って本校にて実施。

4・学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ◆平成 30 年度の進級率は、87.4%であり、87.3%だった昨年度と比してわずかながら上昇した。
- ◆平成 30 年度の就職率は、97.1%となり、目標の 100%には達しなかったが、昨年度よりも+2.7%の実績を残すことができた。
- ◆情報公開については、昨年度より HP を通じた情報公開が始まったが、まだまだ不十分なレベルであり、今後さらなる取り組みが必要である。
- ◆HP を通じた情報公開だけでなく、学生の保護者に対しては保護者会を開催する等、直接対話ができるような連携も今後、速やかに実施していく必要がある。
- ◆教育活動においては、学科単位では先進的な取り組みをしていますが、それが学校全体になかなか波及せず、結果として学校としての取り組みにまでは至っていないことが、最大の課題である。
- ◆今回の自己点検・自己評価委員会が出された課題や検討事項に対して、具体的な改善策を考えて推進していくための専門チームを組織し、次年度早々にも、学校長指示のもと動き出す必要がある。

以上

学校自己点検・自己評価委員会

委員長 黒田邦男 学校長

副委員長 竹田 卓司

委員 白木 伸吾

田中 新兵

山本 裕季

菅野 修

事務局 有賀 史彦